

11月2日

## 諸魂日 All Souls' Day



“All Souls' Day”  
by  
William Bouguereau

1998年にクリュニー修道院で初めて祝われて以来、西欧諸国の修道院でミサが行なわれてきた。18世紀になって、スペイン、ポルトガル、中南米のすべての司祭が行なうことを許され、1915年、教皇ベネディクトゥス15世は、これを全教会に広めた。

ローマ・カトリック教会は、この日を「死者の日」と呼ぶ。前日の大祝日、諸聖徒日（カトリック：諸聖人の日）は、すでに天国にいるとされる聖人たちを記念するのに対し、諸魂日はすべての死者（まだ天国にいたっていない、かもしれない）の記念日とされる。死者は天国に行く前に煉獄で靈魂の浄化を待つ、そのために生者は死者のために祈るという観念は、ローマ・カトリック教会に特有のものであるため、前日の諸聖人の日にすべての死者を記念するプロテスタント教会もある。

俗信では、この日には先祖の魂がなつかしい我が家に帰ってくると考えられている。墓参することはもちろん、先祖のために食べ物をテーブルに残したり、部屋を暖めておいたり、墓石に聖水やミルクを注ぐ地方もある。

イングランド聖公会は、1928年の祈禱書でこの記念日を復活、1980年の Alternative Service Book、2000年の Common Worship の暦

に小祝日として入る。日本聖公会では、この日にレクイエムを奉唱して、死者のために祈る教会もある。

ブラジル、エクアドル、エルサルバドル、ハイチ、メキシコ、グアムなどでは法定休日。メキシコでは、一日と二日を死者の日として国を挙げての祭りが行われるが、これにはキリスト教受容以前からあった伝統的な祭と、アメリカ風ハロウィーンの影響が色濃く感じられる。人びとは死者のために黄色いマリーゴールドの花や供物を飾った祭壇をつくり、街にはユーモラスなガイコツのグッズがあふれる。

(M)

### <特禱>

憐れみ深い神よ、み子イエス・キリストは「わたしは復活であり、命である」と教えられました。どうかわたしたちを罪の死から義の命へとよみがえらせ、終わりのときに愛する兄弟（教名・姓名——）とともに、遂にみ国の永遠の喜びに至ることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン